

グラム展開してきている。その効果や影響については、同地区のゲイ向けクラブイベント参加者への質問紙調査を毎年実施し、その予防に関する知識や意識、行動の動向を把握することによって検討してきた。

本研究班においても過去のクラブ調査と同様の調査を行い、年齢別の知識や意識、行動、プログラム接触状況と、その年次推移を把握ことにより、2005年に実施した予防啓発プログラムの効果、影響について検討したので、その結果を報告する。

B. 研究方法

調査対象者は2006年8月に大阪市北区堂山地区のクラブ2か所で開催されたゲイ向けクラブイベント(合計8回)の参加者とした。調査方法は無記名の自記式質問紙調査とした。手順はイベント会場内またその周辺において調査員が調査の趣旨と内容をクラブイベント参加者に口頭で説明、協力を依頼し、同意の得られた人にその場で質問紙を配布し、回答を依頼した。回答を記入した質問紙は当日その会場内で調査員が回収した。回答者には謝礼としてドリンクチケットを配布した。回収時には回答者のプライバシーに配慮し、無回答や誤回答の点検を含め調査員による回答内容の点検は行わなかった。調査8回の回収総数は725件であったが、イベント参加者の総数は把握していない。

質問紙は本研究班で独自に作成した無記名の自記式質問紙(添付資料参照)を使用した。調査項目はHIV/STI予防の知識6問、HIV予防の意識3問、性行動3問、予防行動3問、受検行動1問、MASH大阪の予防啓発関係4問、人口統計学的項目6問の全26問からなっていた。

分析対象者は、重複回答者を除外した上で、

①自認するセクシャリティに関する質問にゲイまたはバイセクシャル、わからない、その他のいずれかと回答した人、あるいは②性行動に関する質問で過去に男性とセックスの経験ありと回答した人687人とした。

対象者を年齢により4グループに分類し、各年齢層間の回答の分布を比較することにより各年齢群の特徴を明らかにした。各質問と年齢との関連の有無を検討する際には統計的検定の有意確率(おおむね $p < 0.1$)を指標として考慮した。統計的検定には質問の回答が名義尺度のときには χ^2 検定を、順序尺度のときにはMann-WhitneyのU検定やKruskal-Wallis検定を行なった。回答の集計、統計的検定にはパソコン用統計解析パッケージHALBAU for Windows Ver. 5.44(現代数学社、京都、2002年)を使用した。

C. 研究結果

1. 回答者の属性と施設等の利用状況

回答者の平均年齢は29.2歳(標準偏差6.2歳)であった。年齢階級別にみると、24歳以下が27%、25～29歳26%、30～34歳24%、35～44歳22%、45歳以上2%であった。

回答者の居住地等の属性と、過去6か月間の施設などの利用状況について年齢階級別にみたものを表1に示す。表中の総数は45歳以上の10人と年齢不明の11人を含む687人の回答状況である。回答者の居住地は大阪府内55%、大阪府を除く近畿23%であった。自認するセクシャリティ(性的指向)はゲイまたはバイセクシャルが全体の99%を占めていた。年齢別にみると24歳以下ではバイセクシャルがやや多かった。

堂山地区に行く頻度は、年に1回以下6%、年に2～10回21%、月に1～3回40%、週に1回以

上33%であり、月に1回以上訪れると回答した人が7割以上であった。年齢別にみると35歳以上では堂山へ行く頻度がやや少ない傾向がみられた。

過去6か月間の施設などの利用状況をみると、全体の約8割がゲイバーを、6割弱がゲイナイトを、約5割がミクシィを、約4割がハッテン場や出会い系サイトを利用していた。年齢別にみるとゲイナイトや出会い系サイト、ミクシィ、マンション系ハッテン場の利用が34歳以下の若い世代に多かった。特に携帯電話による出会い系サイトの利用は29歳以下に多かった。一方サウナ系ハッテン場の利用は30歳以上で多かった。ゲイショップの利用は24歳以下と30代前半で多かった。

2. MASH大阪の啓発プログラムへの接触状況

MASH大阪が展開する予防啓発プログラムへの接触状況について表2に示す。全体の約3割がドロップインセンター(distaディスタ)を、約5割が屋外型啓発イベント(PLuS+2005)を知っている(「聞いたことがある」と「行ったことがある」の合計)と回答した。また約3割がコミュニティペーパー(SaL+サルボジ)を過去1年間に受け取ったことがあると回答した。年齢との関係を見ると、ドロップインセンターの認知率は若い年齢層ほど高く、コミュニティペーパーの入手率は24歳以下と30代前半の年齢層で高かった。

ドロップインセンターで開催するプログラムのいずれかを知っていると回答したのは25%、その内訳は中国茶カフェ、手話教室、STI勉強会(Café Chat カフェチャット)、友達作り支援プログラム(Stepステップ)、ハングル語教室の順であった。年齢別にみると、友達作り支援プログラムについて知っている人が24歳以下の若い人たちに多くみられた。中国茶カフェや手話教室、ハングル語教室の認知度は24歳以下と30代前半の年齢層

で高かった。

コミュニティペーパーの入手先は、ゲイバーが大部分を占め、その他ではゲイショップやディスタなどであった。年齢別にみると35歳以上ではゲイバーがほとんどであったが、24歳以下や30代前半ではゲイバーのほかゲイショップでの入手も多かった。ドロップインセンターで入手した人は24歳以下で多かった。

3. HIV/STI予防の知識と意識

回答者のHIV/STI予防に関する知識や意識についての集計結果を表3に示す。正答率が比較的高かったのは「梅毒の感染しやすさ」82%、「抗体検査のウインドウ期」77%、「STI感染の影響によるHIV感染しやすさ」69%であった。逆に低かったのは「HIV感染症が延命治療できるようになったこと」57%、「即日検査や自宅用検査キットでは感染していなくても誤って陽性と判定されることがあること」53%、「コンドームを油性潤滑剤と併用すると破けやすくなること」の51%であった。

年齢群間で正答率に違いが見られたのは「延命治療」と「STI感染の影響」であった。「延命治療」の正答率は20代後半が他の年齢層より10ポイント以上低く、「STI感染の影響」では30代前半が10ポイント以上高かった。

回答者を過去6か月間のアナルセックスの経験の有無から経験者(n=515人)と非経験者(n=151人)に分類し6問中の正答数を比較すると経験者の方が多い傾向を認めた(経験者のU統計量:44319.5、非経験者のU統計量:33445.5、 $p=0.00768$)。各々の正答率を比較すると経験者の方が「コンドームの耐性」(経験者54%、非経験者40%、 $p=0.00391$)や「即日検査の誤判定」(経験者54%、非経験者46%、 $p=0.10081$)で正答率が高い傾向がみられた。

過去の性行動を振り返ってHIVに感染する可能性があったと思うかという問に対して、約2割の回答者が「十分可能性があった」と回答した。またアナルセックス経験者の方が「可能性があった」と回答する人が多く(経験者22%、非経験者13%、 $p=0.02315$)、感染リスクの自認が強い傾向がみられた。回答者の身近での感染者の存在の認識については約5割の人が身近に感じている(「いる」または「いると思う」の合計)と回答した。またアナルセックス経験者の方が存在を身近に感じている人が多い傾向が認められた(経験者52%、非経験者36%、 $p=0.00824$)。感染リスクの自認や身近な感染者の存在の認識と年齢との間に特徴的な関係は認められなかった。

4. コンドーム使用状況について

過去6か月間のアナルセックスの経験とコンドーム使用状況、購入経験について表4に示す。

過去6か月間にアナルセックスを経験した人は全体の約8割、年齢との関連をみると、若い人ほど経験のあった人が多かった。相手人数は20代後半で5人以上と回答した人が多い傾向がみられた。

相手・行為別のコンドームの使用状況についてみると、特定相手との挿入(タチ)時の常用率(「毎回使った」人の割合)が61%、特定相手との被挿入(ウケ)時が60%、不特定相手(その場限りの相手)との挿入(タチ)時の常用率67%、不特定相手との被挿入(ウケ)時が66%であった。また「まったく使わなかった」の割合は特定相手との挿入時、被挿入時とも15%、不特定相手との場合は挿入時、被挿入時とも9%であり、コンドーム使用頻度は特定相手より不特定相手の方が高かった。また「最後にしたアナルセックス」でのコンドーム使用でも特定の相手との場合よりその場限りの人と

の場合の方が使用率(「使った」と回答した人の割合)は高かった。年齢との関係を見ると、不特定相手との挿入側での常用率が20代後半で多かった。また特定相手との「最後のアナルセックス」で使用率は若い年齢層ほど多くなる傾向がみられた。

コンドーム購入経験についてみると、アナルセックス経験者では半数以上が「ある」と回答し、その購入先はドラッグストア、コンビニ、ゲイショップの順であった。購入経験と年齢との間には特徴的な関係はみられなかった。

5. 抗体検査の受検状況と相談相手について

HIV抗体検査の受検経験とHIV/STIの相談相手に関する集計結果を表5に示す。

過去1年間の抗体検査の受検率は38%、受検場所では「保健所・保健センター」、「病院・クリニック」が多かった。アナルセックス経験者での受検率はやや多い傾向がみられた。年齢との関係を見ると20代後半の受検率がやや高い傾向がみられ、その受検場所は「保健所・保健センター」が多かった。

HIV/STIに関する相談相手についてみると「保健所・保健センター」、「病院・クリニック」、「友人・知人」の順であり、医学的な専門機関だけでなく身近な人も相談相手として考えている人が多かった。相談相手と年齢との間には特に関連を認めなかった。

6. 大阪クラブ調査の年次推移

大阪地区の過去3回のクラブ調査の結果と今回の結果を比較したものを表6に示す。

分析対象者数は2002年の1.7倍、2004年より約100人増加していた。その平均年齢は4年前の2002年の調査より1歳高くなっていた。居住地は

過去3回の調査より大阪府内の割合がやや減少し、近畿地域以外がやや増加していた。

MASH大阪の啓発プログラムへの接触状況についてみると、ドロップインセンターを知っている人（「聞いたことがある」人と「行ったことがある」人の合計）やコミュニティペーパーを入手したことがある人は前回2004年の調査より減少していた。予防に関する知識についてみると、いずれの事項の正答率も2004年より低下していた。

コンドームの使用状況等についてみると、特定相手との場合も不特定相手との場合も「毎回使った」人が増加し、「全く使わなかった」人や「半々」の人は減少していた。コンドームの購入についても「買ったことがある」人は年々増加していた。抗体検査の受検率は、2002年から2003年にかけて減少したものの（MASH大阪による臨時検査イベントが終了した影響によるものと考えられるが）、2004年以降は増加に転じていた。

D. 考察

大阪ではゲイボランティアによる予防啓発プロジェクトMASH大阪の展開する予防啓発プログラムの効果を評価し、また新たな予防啓発プログラムを模索するため、1999年から2004年までの間、毎年、北区堂山地区のクラブイベント参加者を対象とした質問紙調査を実施してきた。クラブ利用者という特定の集団であるが毎年同様のMSM集団の予防に関する知識や意識、行動を調査し、その年次推移を比較、検討することにより、各プログラムの有効性について検討してきた。ただ2005年は大阪市内のゲイバーの顧客を対象とした大規模調査や屋外型啓発イベントを実施したことから、クラブイベントでの調査は実施しなかったため、今回のクラブ調査は2年ぶりとなる。調査の実施

手順は過去の調査結果との比較可能性を確保するため、大きく異なる点はない。調査を行ったクラブ数は対象者数を増やす目的からそれまでの1か所から2か所に増やしている。質問紙は2001年までA4版2ページで40問程度のものを使用していたが、協力を取りつけて配布した質問紙が回収できなかつたり、無回答や白紙回答もかなり存在したため、2002年からは25問程度に質問数を減らしている。それ以降今回の質問紙も含めて質問数はほとんど変わっていない。質問内容は各年次のプログラムの展開に応じた若干の変更点はあるが、全体的に大きな違いはない。今回の調査で変更した点はドロップインセンターで開催する各プログラムや屋外型啓発イベントへの接触状況、インターネットの利用状況、堂山地区への来所頻度、即日検査や自宅検査キットに関する知識、HIV/STIに関する相談相手についての質問を追加したこと、脱法ドラッグについての質問を削除したことなどである。堂山への来所頻度の調査は大阪地域のMSM人口を推計する基礎資料とするためでもある。

今回の調査の目的は年齢階級別の集計結果から各年齢層へのプログラムの影響について検討すること、今回の結果を過去の調査結果と比較しその動向を把握することにある。

年齢別の集計結果をみると二つの特徴がみられる。一つは年齢の若い人たちほど、ゲイナイトや出会い系サイトなど一部施設の利用率が高く、ドロップインセンターの認知度や特定相手との最後のアナルセックスでコンドーム使用率つまり短期的なコンドーム使用率が高かったこと。つまり20代前半を中心とする若い年齢層では一部の予防プログラムへの接触状況と限られた状況でのコンドーム使用との間に関連が示唆されたことである。

もう一つの特徴は、20代後半の年齢群でコミュニティペーパー入手率やドロップインセンターでの各プログラム認知率が低く、「延命治療が可能なこと」や「STI感染のHIV感染への影響」の正答率が低かったにもかかわらず、不特定相手とのアナルセックスでコンドーム常用率が高かったこと。また抗体検査の受検率も高く、しかも受検場所は「病院・クリニック」よりも「保健所・保健センター」が多かったことである。性行動についてみてもその他の年齢層よりアナルセックスの相手人数も多い傾向がみられたことである。つまりこの年齢層には性行動が活発な人が多く、啓発プログラムへの接触度も低く、HIVやSTIに関する知識が少ない人が多いにもかかわらず、コンドームの常用者や抗体検査の受検者が多かったことが窺われるということである。しかも「保健所・保健センター」での受検が多いことから性感染症に伴う受検率の増加の可能性も考えにくい。

年次推移についても同様の傾向がみられる。つまり予防啓発プログラムへの接触度や予防知識の正答率が過去の調査結果より減少傾向を示したにもかかわらず、コンドーム常用率や抗体検査の受検率は増加傾向を示していたのである。これらの関係を整理する、啓発プログラムや知識の普及と予防行動の変化との間に直接的な関連が明らかではなく、場合によってはそれらが乖離している可能性も考えられる。

今回の分析対象者の20代後半の年齢層に何か特殊な状況があるのか本分析結果からは明らか

にはならなかった。また少なくとも20代前半を中心とする比較的若い年齢層では一部の予防行動と啓発プログラムの間に関連を示唆する結果が得られた。しかし今回の調査では、前回2004年の調査で認められたコミュニティペーパーとコンドーム常用との関連のように啓発プログラムと予防行動との関連を示唆する結果は得られなかった。今後詳細な分析を加えコミュニティペーパーやドロップインセンターでの啓発プログラムと予防行動との関連について検討し、その関連を抑制する要因の有無について十分に検討していく必要があるのではないと思われる。

E. まとめ

MASH大阪によるHIV/STI予防啓発プログラムの効果について評価するため、北区堂山地区のクラブイベント参加者に質問紙調査を行った。予防に関する知識や意識、行動とプログラムへの接触状況については過去の同様の調査結果と比較し、また年齢階級別の集計を行ない検討した。その結果20代後半の年齢層でプログラム接触度や予防知識の正答率が低かったにもかかわらず、コンドーム常用率や抗体検査受検率は高い傾向が認められ、啓発プログラムへの接触と予防行動との間に関連を認めなかった。今後、詳細な分析を加えることによってその抑制要因について検討していく必要があるであろう。

表1 回答者の属性と施設等の利用状況

	総数* (%)	～24歳 (%)	25～29歳 (%)	30～34歳 (%)	35～44歳 (%)	p値 [#]
調査対象のクラブイベント						<0.00001
イベントA	52 (7.6)	17 (9.4)	13 (7.4)	13 (7.9)	6 (4.1)	
イベントB	113 (16.4)	62 (34.4)	34 (19.4)	11 (6.7)	0 (0)	
イベントC	168 (24.5)	20 (11.1)	32 (18.3)	55 (33.5)	58 (39.5)	
イベントD	94 (13.7)	6 (3.3)	15 (8.6)	39 (23.8)	32 (21.8)	
イベントE	72 (10.5)	6 (3.3)	26 (14.9)	9 (5.5)	28 (19.0)	
イベントF	61 (8.9)	14 (7.8)	20 (11.4)	15 (9.1)	12 (8.2)	
イベントG	43 (6.3)	17 (9.4)	9 (5.1)	9 (5.5)	7 (4.8)	
イベントH	84 (12.2)	38 (21.1)	26 (14.9)	13 (7.9)	4 (2.7)	
合計	687 (100)	180 (100)	175 (100)	164 (100)	147 (100)	
過去のクラブ調査への回答経験						0.24333
ない	607 (88.6)	164 (91.1)	153 (87.9)	138 (84.7)	134 (91.2)	
昨年以前に回答経験あり	57 (8.3)	15 (8.3)	12 (6.9)	18 (11.0)	9 (6.1)	
わからない	21 (3.1)	1 (0.6)	7 (4.0)	6 (3.7)	4 (2.7)	
今年は○回目	0 (0.0)	0 (0)	2 (1.1)	1 (0.6)	0 (0)	
合計	685 (100)	180 (100)	174 (100)	163 (100)	147 (100)	
居住地						0.78964
大阪	370 (54.8)	97 (53.9)	100 (57.5)	89 (54.3)	78 (53.1)	
近畿(大阪を除く)	152 (22.5)	47 (26.1)	34 (19.5)	35 (21.3)	33 (22.4)	
その他	153 (22.7)	36 (20.0)	40 (23.0)	40 (24.4)	36 (24.5)	
合計	675 (100)	180 (100)	174 (100)	164 (100)	147 (100)	
セクシャリティ						0.02055
ゲイ	588 (86.0)	143 (79.4)	153 (87.4)	146 (89.6)	131 (89.1)	
バイセクシャル	87 (12.7)	34 (18.9)	21 (12.0)	16 (9.8)	14 (9.5)	
わからない	5 (0.7)	0 (0)	1 (0.6)	1 (0.6)	2 (1.4)	
その他	4 (0.6)	3 (1.7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
合計	684 (100)	180 (100)	175 (100)	163 (100)	147 (100)	
堂山へ行く頻度(不明・無回答35人を除く)						0.00191
年に1回未満	1 (0.2)	0 (0)	0 (0)	1 (0.6)	0 (0)	0.18871 KW
年に1回	37 (5.7)	11 (6.3)	5 (3.0)	9 (5.7)	12 (8.8)	
年に2回	40 (6.1)	5 (2.9)	7 (4.2)	11 (7.0)	17 (12.4)	
年に3回	34 (5.2)	9 (5.2)	11 (6.7)	7 (4.5)	7 (5.1)	
年に4回	16 (2.5)	9 (5.2)	1 (0.6)	3 (1.9)	3 (2.2)	
年に5回	23 (3.5)	4 (2.3)	5 (3.0)	6 (3.8)	7 (5.1)	
年に6回	13 (2.0)	4 (2.3)	4 (2.4)	1 (0.6)	3 (2.2)	
年に10回	9 (1.4)	2 (1.1)	2 (1.2)	1 (0.6)	4 (2.9)	
月に1回	102 (15.6)	23 (13.2)	38 (23.0)	24 (15.3)	16 (11.7)	
月に2回	110 (16.9)	28 (16.1)	32 (19.4)	34 (21.7)	10 (7.3)	
月に3回	51 (7.8)	12 (6.9)	11 (6.7)	12 (7.6)	12 (8.8)	
週に1回	120 (18.4)	34 (19.5)	27 (16.4)	34 (21.7)	24 (17.5)	
週に2回	44 (6.7)	12 (6.9)	10 (6.1)	6 (3.8)	14 (10.2)	
週に3回	28 (4.3)	11 (6.3)	6 (3.6)	4 (2.5)	4 (2.9)	
週に4回	7 (1.1)	4 (2.3)	0 (0)	3 (1.9)	0 (0)	
週に5回	8 (1.2)	1 (0.6)	5 (3.0)	1 (0.6)	1 (0.7)	
週に6回	9 (1.4)	5 (2.9)	1 (0.6)	0 (0)	3 (2.2)	
合計	652 (100)	174 (100)	165 (100)	157 (100)	137 (100)	
堂山へ行く頻度(不明・無回答35人を除く、再掲)						0.00602
年に1～10回	173 (26.5)	35 (25.2)	35 (21.2)	39 (24.8)	53 (38.7)	0.25258 KW
月に1～3回	263 (40.3)	63 (36.2)	81 (49.1)	70 (44.6)	38 (27.7)	
週に1～6回	216 (33.1)	67 (38.5)	49 (29.7)	48 (30.6)	46 (33.6)	
合計	652 (100)	174 (100)	165 (100)	157 (100)	137 (100)	
過去6か月間の利用施設の有無						
利用あり	659 (96.6)	173 (96.1)	166 (96.0)	158 (96.3)	144 (98)	
利用なし	23 (3.4)	7 (3.9)	7 (4.0)	6 (3.7)	3 (2)	
合計	682 (100)	180 (100)	173 (100)	164 (100)	147 (100)	
利用施設の内訳						
ゲイバー	552 (80.9)	146 (81.1)	134 (77.5)	138 (84.1)	119 (81.0)	0.48466
ゲイナイト	387 (56.7)	107 (59.4)	107 (61.8)	91 (55.5)	68 (46.3)	0.02999
マンション系ハッテン場	119 (17.4)	35 (19.4)	36 (20.8)	29 (17.7)	16 (10.9)	0.09998
サウナ系ハッテン場	200 (29.3)	44 (24.4)	46 (26.6)	57 (34.8)	50 (34.0)	0.08948
その他のハッテン場	46 (6.7)	14 (7.8)	13 (7.5)	6 (3.7)	11 (7.5)	0.37421
ゲイショップ	191 (28.0)	58 (32.2)	37 (21.4)	53 (32.3)	41 (27.9)	0.08127
mixi(ミクシイ)	336 (49.3)	100 (55.6)	89 (51.4)	85 (51.8)	59 (40.1)	0.04018
PC用出会い系サイト	201 (29.5)	56 (31.1)	59 (34.1)	53 (32.3)	32 (21.8)	0.08446
携帯用出会い系サイト	157 (23.0)	54 (30.0)	42 (24.3)	33 (20.1)	27 (18.4)	0.05795
合計	682 (100)	180 (100)	173 (100)	164 (100)	147 (100)	
商業系ハッテン場(再掲)						0.34524
利用なし	410 (60.8)	116 (64.4)	107 (61.8)	90 (54.9)	89 (60.5)	0.46035 KW
1種類	213 (31.6)	49 (27.2)	50 (28.9)	62 (37.8)	50 (34.0)	
2種類	51 (7.6)	15 (8.3)	16 (9.2)	12 (7.3)	8 (5.4)	
合計	674 (100)	180 (100)	173 (100)	164 (100)	147 (100)	
出会い系サイト(再掲)						0.09655
利用なし	408 (60.5)	100 (55.6)	102 (59.0)	97 (59.1)	99 (67.3)	0.08306 KW
1種類	176 (26.1)	50 (27.8)	41 (23.7)	48 (29.3)	37 (25.2)	
2種類	90 (13.4)	30 (16.7)	30 (17.3)	19 (11.6)	11 (7.5)	
合計	674 (100)	180 (100)	173 (100)	164 (100)	147 (100)	
インターネット利用						0.20209
利用しない	46 (6.8)	9 (5.0)	11 (6.5)	5 (3.1)	15 (10.3)	0.50959 KW
ときどき	199 (29.5)	55 (30.7)	54 (31.8)	46 (28.6)	38 (26.0)	
よく利用する	429 (63.6)	115 (64.2)	105 (61.8)	110 (68.3)	93 (63.7)	
合計	674 (100)	179 (100)	170 (100)	161 (100)	146 (100)	

*総数:年齢が45歳以上10人, 不明11人を含む, #p値:KWはKruskal-Wallis検定, その他はχ²検定による値.

表2 回答者のMSHA大阪のプログラムへの接触状況

	総数 (%)	～24歳 (%)	25～29歳 (%)	30～34歳 (%)	35～44歳 (%)	p値*
dista(ディスタ)の認知						0.00001
初めて聞いた	454 (66.4)	100 (55.6)	118 (67.8)	105 (64.4)	116 (78.9)	
聞いたことがある	123 (18.0)	29 (16.1)	31 (17.8)	37 (22.7)	23 (15.6)	
行ったことがある	107 (15.6)	51 (28.3)	25 (14.4)	21 (12.9)	8 (5.4)	
合計	684 (100)	180 (100)	174 (100)	163 (100)	147 (100)	
distaでのプログラムの認知						0.05425
知っている	166 (24.7)	53 (30.1)	38 (22.2)	45 (28.0)	26 (18.1)	
知らない	507 (75.3)	123 (69.9)	133 (77.8)	116 (72.0)	118 (81.9)	
合計	673 (100)	176 (100)	171 (100)	161 (100)	144 (100)	
プログラムの内訳						
CAFÉ CHAT	59 (35.5)	19 (35.8)	11 (28.9)	18 (40.0)	8 (5.6)	0.15987
step	51 (30.7)	29 (54.7)	9 (23.7)	10 (22.2)	3 (2.1)	0.00001
中国茶会(東方美男)	88 (53.0)	28 (52.8)	22 (57.9)	26 (57.8)	11 (7.6)	0.10298
CAMP	26 (15.7)	11 (20.8)	4 (10.5)	8 (17.8)	3 (2.1)	0.14883
Salon de Oni	26 (15.7)	11 (20.8)	4 (10.5)	8 (17.8)	3 (2.1)	0.14883
手話入門教室	62 (37.3)	24 (45.3)	11 (28.9)	19 (42.2)	6 (4.2)	0.00983
ハングル教室	50 (30.1)	20 (37.7)	9 (23.7)	13 (28.9)	7 (4.9)	0.08849
MASH web	44 (26.5)	13 (24.5)	7 (18.4)	12 (26.7)	12 (8.3)	0.43499
合計(プログラム知っている)	166 (100)	53 (100)	38 (100)	45 (100)	144 (100)	
PLuS+2005の認知						0.29479
初めて聞いた	321 (47.0)	76 (42.5)	84 (48.3)	70 (42.9)	78 (53.4)	
聞いたことがある	229 (33.5)	61 (34.1)	62 (35.6)	56 (34.4)	42 (28.8)	0.12578 KW
行ったことがある	133 (19.5)	42 (23.5)	28 (16.1)	37 (22.7)	26 (17.8)	
合計	683 (100)	179 (100)	174 (100)	163 (100)	146 (100)	
過去1年間のSaL+の入手状況						0.05962
入手経験あり	229 (33.4)	72 (40.0)	50 (28.7)	57 (35.0)	41 (27.9)	
なし	456 (66.6)	108 (60.0)	124 (71.3)	106 (65.0)	106 (72.1)	
合計	685 (100)	180 (100)	174 (100)	163 (100)	147 (100)	
SaL+の入手場所の内訳						
ゲイバー	160 (23.4)	49 (27.2)	37 (21.3)	34 (20.9)	32 (21.8)	0.44706
イベント会場	38 (5.5)	13 (7.2)	9 (5.2)	8 (4.9)	7 (4.8)	0.72811
ディスタ	42 (6.1)	27 (15.0)	5 (2.9)	8 (4.9)	2 (1.4)	<0.00001
ゲイショップ	45 (6.6)	18 (10.0)	8 (4.6)	15 (9.2)	4 (2.7)	0.02216
ハッテン場	34 (5.0)	11 (6.1)	7 (4.0)	10 (6.1)	6 (4.1)	0.68995
合計	685 (100)	180 (100)	174 (100)	163 (100)	147 (100)	

*総数:年齢が45歳以上10人, 不明11人を含む。 #p値:KWはKruskal-Wallis検定, その他はχ²検定による値。

表3 回答者のHIV/STI予防に関する知識・意識

	総数 (%)	～24歳 (%)	25～29歳 (%)	30～34歳 (%)	35～44歳 (%)	p値*
HIV/STI予防知識の正答率						
HIVの延命治療について	382 (55.6)	105 (58.3)	82 (46.9)	95 (57.9)	90 (61.2)	0.04208
検査ウインドウ期について	530 (77.1)	139 (77.2)	142 (81.1)	124 (75.6)	110 (74.8)	0.52155
HIV迅速検査キットの誤反応	359 (52.3)	96 (53.3)	91 (52.0)	89 (54.3)	76 (51.7)	0.96412
コンドーム耐性について	350 (50.9)	87 (48.3)	83 (47.4)	96 (58.5)	75 (51.0)	0.16300
STI感染によるHIV易感染性	473 (68.9)	116 (64.4)	119 (68.0)	130 (79.3)	95 (64.6)	0.01050
梅毒の易感染性	560 (81.5)	153 (85.0)	143 (81.7)	137 (83.5)	112 (76.2)	0.19645
合計	687 (100)	180 (100)	175 (100)	164 (100)	147 (100)	
予防知識の正答率(アナルセックス経験者のみ再掲)						
HIVの延命治療について	292 (56.7)	78 (56.9)	63 (47.0)	75 (61.5)	67 (63.2)	0.04429
検査ウインドウ期について	403 (78.3)	105 (76.6)	112 (83.6)	96 (78.7)	78 (73.6)	0.28870
HIV迅速検査キットの誤反応	280 (54.4)	74 (54.0)	74 (55.2)	71 (58.2)	54 (50.9)	0.74187
コンドーム耐性について	279 (54.2)	70 (51.1)	68 (50.7)	77 (63.1)	55 (51.9)	0.15650
STI感染によるHIV易感染性	336 (71.1)	92 (67.2)	93 (69.4)	100 (82.0)	71 (67)	0.02743
梅毒の易感染性	429 (83.3)	119 (86.9)	115 (85.8)	102 (83.6)	81 (76.4)	0.13705
合計	515 (100)	137 (100)	134 (100)	122 (100)	106 (100)	
HIV/STI予防の知識の正答数						0.22291
6間	118 (17.2)	22 (12.2)	31 (17.7)	36 (22.0)	26 (17.7)	0.21565 KW
5間	154 (22.4)	45 (25.0)	39 (22.3)	38 (23.2)	31 (21.1)	
4間	162 (23.6)	51 (28.3)	29 (16.6)	42 (25.6)	34 (23.1)	
3間	130 (18.9)	35 (19.4)	38 (21.7)	23 (14.0)	28 (19.0)	
2間	54 (7.9)	12 (6.7)	21 (12.0)	10 (6.1)	9 (6.1)	
1間	31 (4.5)	6 (3.3)	7 (4.0)	8 (4.9)	10 (6.8)	
0間	38 (5.5)	9 (5.0)	10 (5.7)	7 (4.3)	9 (6.1)	
合計	687 (100)	180 (100)	175 (100)	164 (100)	147 (100)	
自身のエイズにかかる可能性						0.51769
絶対ない	74 (10.8)	24 (13.3)	20 (11.5)	8 (4.9)	17 (11.6)	
ほとんどない	212 (31.0)	52 (28.9)	50 (28.7)	54 (32.9)	50 (34.0)	
五分五分	169 (24.7)	47 (26.1)	44 (25.3)	42 (25.6)	33 (22.4)	
十分可能性がある	135 (19.8)	37 (20.6)	31 (17.8)	38 (23.2)	27 (18.4)	
わからない	93 (13.6)	20 (11.1)	29 (16.7)	22 (13.4)	20 (13.6)	
合計	683 (100)	180 (100)	174 (100)	164 (100)	147 (100)	
自身のエイズにかかる可能性(アナルセックス経験者のみ再掲)						0.52792
絶対ない	48 (9.3)	15 (10.9)	15 (11.2)	5 (4.1)	10 (9.4)	
ほとんどない	147 (28.5)	38 (27.7)	35 (26.1)	38 (31.1)	33 (31.1)	
五分五分	137 (26.6)	40 (29.2)	35 (26.1)	32 (26.2)	27 (25.5)	
十分可能性がある	112 (21.7)	30 (21.9)	25 (18.7)	34 (27.9)	21 (19.8)	
わからない	71 (13.8)	14 (10.2)	24 (17.9)	13 (10.7)	15 (14.1)	
合計	515 (100)	137 (100)	134 (100)	122 (100)	106 (100)	
身近なHIV感染者の存在						0.12320
いる	200 (29.4)	44 (24.9)	46 (26.6)	47 (28.7)	57 (38.8)	
いると思う	126 (18.5)	35 (19.8)	29 (16.8)	36 (22.0)	24 (16.3)	
いないと思う	118 (17.4)	30 (16.9)	27 (15.6)	26 (15.9)	31 (21.1)	
いない	176 (25.9)	50 (28.2)	54 (31.2)	41 (25.0)	25 (17.0)	
わからない	60 (8.8)	18 (10.2)	17 (9.8)	14 (8.5)	10 (6.8)	
合計	680 (100)	177 (100)	173 (100)	164 (100)	147 (100)	
身近な感染者の存在(アナルセックス経験者のみ再掲)						0.37394
いる	166 (32.6)	36 (26.7)	39 (29.5)	44 (36.1)	44 (41.5)	
いると思う	98 (19.3)	27 (20)	25 (18.9)	27 (22.1)	18 (17.0)	
いないと思う	81 (15.9)	22 (16.3)	19 (14.4)	17 (13.9)	20 (18.9)	
いない	123 (24.2)	36 (26.7)	38 (28.8)	25 (20.5)	18 (17.0)	
わからない	41 (8.1)	14 (10.4)	11 (8.3)	9 (7.4)	6 (5.7)	
合計	509 (100)	135 (100)	132 (100)	122 (100)	106 (100)	

*総数:年齢が45歳以上10人, 不明11人を含む。 #p値:KWはKruskal-Wallis検定, その他はχ²検定による値。

表4 回答者の過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用状況

	総数 [#] (%)	～24歳(%)	25～29歳(%)	30～34歳(%)	35～44歳(%)	p値 [#]
過去6か月間のアナルセックス経験						0.33458
経験あり	515 (78.5)	137 (80.1)	134 (79.8)	122 (75.8)	106 (72.6)	
なし	151 (23.0)	34 (19.9)	34 (20.2)	39 (24.2)	40 (27.4)	
合計	656 (100)	171 (100)	168 (100)	161 (100)	146 (100)	
アナル相手人数						0.15603
1人	110 (21.4)	26 (19.1)	24 (18)	29 (23.8)	29 (27.1)	KW
2～4人	120 (23.3)	39 (28.7)	23 (17.3)	31 (25.4)	21 (19.6)	
5人以上	100 (19.4)	27 (19.9)	35 (26.3)	19 (15.6)	17 (15.9)	
無回答	185 (35.9)	44 (32.4)	51 (38.3)	43 (35.2)	40 (37.4)	
合計	515 (100)	136 (100)	133 (100)	122 (100)	107 (100)	
特定相手(タチ)でのゴム使用状況						0.40037
無回答	19 (5.1)	5 (5.1)	5 (5.3)	3 (3.2)	3 (4.1)	0.19506 KW
全く不使用	54 (14.6)	17 (17.2)	9 (9.6)	12 (12.9)	14 (19.2)	
不使用多い	15 (4.0)	4 (4.0)	5 (5.3)	5 (5.4)	0 (0)	
半々	34 (9.2)	6 (6.1)	12 (12.8)	12 (12.9)	3 (4.1)	
使用多い	22 (5.9)	4 (4)	8 (8.5)	5 (5.4)	5 (6.8)	
毎回使った	227 (61.2)	63 (63.6)	55 (58.5)	56 (60.2)	48 (65.8)	
合計	371 (100)	99 (100)	94 (100)	93 (100)	73 (100)	
特定相手(ウケ)でのゴム使用状況						0.87043
無回答	25 (7.4)	8 (7.0)	4 (4.8)	5 (7.1)	5 (8.3)	0.96354 KW
全く不使用	51 (15.1)	18 (15.8)	10 (11.9)	10 (14.3)	12 (20.0)	
不使用多い	10 (3.0)	6 (5.3)	2 (2.4)	2 (2.9)	0 (0)	
半々	26 (7.7)	7 (6.1)	10 (11.9)	6 (8.6)	3 (5.0)	
使用多い	24 (7.1)	8 (7)	7 (8.3)	5 (7.1)	4 (6.7)	
毎回使った	201 (59.6)	67 (58.8)	51 (60.7)	42 (60.0)	36 (60.0)	
合計	337 (100)	114 (100)	84 (100)	70 (100)	60 (100)	
不特定相手(タチ)でのゴム使用状況						0.06639
無回答	20 (6.0)	6 (6.6)	4 (4.5)	3 (3.8)	4 (6.2)	0.92810 KW
全く不使用	29 (8.7)	15 (16.5)	1 (1.1)	6 (7.5)	6 (9.2)	
不使用多い	12 (3.6)	3 (3.3)	3 (3.4)	5 (6.3)	0 (0)	
半々	21 (6.3)	4 (4.4)	7 (8.0)	6 (7.5)	4 (6.2)	
使用多い	30 (9.0)	7 (7.7)	5 (5.7)	11 (13.8)	7 (10.8)	
毎回使った	223 (66.6)	56 (61.5)	68 (77.3)	49 (61.3)	44 (67.7)	
合計	335 (100)	91 (100)	88 (100)	80 (100)	65 (100)	
不特定相手(ウケ)でのゴム使用状況						0.44902
無回答	22 (7.1)	6 (5.9)	5 (6.2)	4 (5.9)	4 (7.8)	0.31676 KW
全く不使用	27 (8.7)	15 (14.9)	3 (3.7)	3 (4.4)	5 (9.8)	
不使用多い	10 (3.2)	4 (4)	3 (3.7)	2 (2.9)	0 (0)	
半々	20 (6.4)	6 (5.9)	7 (8.6)	2 (2.9)	3 (5.9)	
使用多い	28 (9.0)	9 (8.9)	6 (7.4)	9 (13.2)	4 (7.8)	
毎回使った	205 (65.7)	61 (60.4)	57 (70.4)	48 (70.6)	35 (68.6)	
合計	312 (100)	101 (100)	81 (100)	68 (100)	51 (100)	
コンドームの使用状況						0.39154
常用	289 (55.5)	77 (54.2)	73 (54.9)	66 (52.8)	67 (63.2)	
非常用	232 (44.5)	65 (45.8)	60 (45.1)	59 (47.2)	39 (36.8)	
合計	521 (100)	142 (100)	133 (100)	125 (100)	106 (100)	
最後のアナルでの特定相手とのゴム使用						0.09452
あり	156 (46.8)	56 (56.6)	41 (49.4)	30 (39.5)	68 (63)	
無回答・なし	177 (53.2)	43 (43.4)	42 (50.6)	46 (60.5)	40 (37)	
合計	333 (100)	99 (100)	83 (100)	76 (100)	108 (100)	
最後のアナルでの不特定相手とのゴム使用						0.82728
あり	163 (54.7)	37 (53.6)	43 (56.6)	40 (53.3)	25 (41)	
無回答・なし	135 (45.3)	32 (46.4)	33 (43.4)	35 (46.7)	36 (59)	
合計	298 (100)	69 (100)	76 (100)	75 (100)	61 (100)	
過去6か月間のコンドーム購入経験(アナルセックス経験者のみ再掲)						0.97860
購入した経験あり	276 (54.0)	72 (52.6)	72 (54.1)	70 (57.9)	41 (60.3)	
なし	235 (46.0)	65 (47.4)	61 (45.9)	51 (42.1)	27 (39.7)	
合計	511 (100)	137 (100)	133 (100)	121 (100)	68 (100)	
購入場所						
ドラッグストア等	141 (27.6)	38 (27.7)	33 (24.8)	35 (28.9)	33 (22.6)	0.78743
コンビニ等	69 (13.5)	22 (16.1)	17 (12.8)	18 (14.9)	17 (11.6)	0.61908
ゲイショップ	56 (11.0)	14 (10.2)	14 (10.5)	17 (14.0)	14 (9.6)	0.79907
ハッテン場	48 (9.4)	7 (5.1)	15 (11.3)	13 (10.7)	14 (9.6)	0.32108
合計	511 (100)	137 (100)	133 (100)	121 (100)	146 (100)	

*総数:年齢が45歳以上10人、不明11人を含む。 #p値:KWはKruskal-Wallis検定、その他は χ^2 検定による値。

表5 回答者の過去1年間のエイズ検査の受検状況とHIV/STIに関する相談相手

	総数* (%)	～24歳 (%)	25～29歳 (%)	30～34歳 (%)	35～44歳 (%)	p値#
エイズ検査の受検経験						
受検した経験あり	256 (38.0)	64 (35.8)	78 (44.6)	59 (36.2)	47 (32.0)	0.11141
なし	428 (63.5)	115 (64.2)	97 (55.4)	104 (63.8)	100 (68.0)	
合計	674 (100)	179 (100)	175 (100)	163 (100)	147 (100)	
受検場所の内訳						
病院・クリニック	79 (11.7)	19 (10.6)	23 (13.1)	25 (15.3)	11 (7.5)	0.16077
保健所・保健センター	105 (15.6)	23 (12.8)	39 (22.3)	23 (14.1)	20 (13.6)	0.05550
木曜の夜間検査	5 (0.7)	0 (0.0)	2 (1.1)	2 (1.2)	1 (0.7)	0.52912
土曜午後の検査	19 (2.8)	7 (3.9)	3 (1.7)	2 (1.2)	6 (4.1)	0.25674
日曜午後の検査	21 (3.1)	7 (3.9)	6 (3.4)	6 (3.7)	2 (1.4)	0.55818
名古屋のイベント検査	20 (3.0)	6 (3.4)	5 (2.9)	5 (3.1)	4 (2.7)	0.98808
その他	15 (2.2)	4 (2.2)	5 (2.9)	1 (0.6)	5 (3.4)	0.36882
合計	674 (100)	179 (100)	175 (100)	163 (100)	147 (100)	
エイズ検査の受検経験(アナルセックス経験者のみ再掲)						
受検した経験あり	207 (40.4)	52 (38.2)	62 (46.3)	50 (41)	36 (34.0)	0.25941
なし	306 (59.6)	84 (61.8)	72 (53.7)	72 (59)	70 (66.0)	
合計	513 (100)	136 (100)	134 (100)	122 (100)	106 (100)	
受検場所の内訳(アナルセックス経験者のみ再掲)						
病院・クリニック	66 (12.9)	16 (11.8)	16 (11.9)	19 (15.6)	9 (8.5)	0.43872
保健所・保健センター	87 (17.0)	19 (14.0)	32 (23.9)	19 (15.6)	16 (15.1)	0.12541
木曜の夜間検査	5 (1.0)	0 (0.0)	2 (1.5)	2 (1.6)	1 (0.9)	0.53186
土曜午後の検査	16 (3.1)	7 (5.1)	3 (2.2)	2 (1.6)	4 (3.8)	0.37296
日曜午後の検査	16 (3.1)	5 (3.7)	4 (3.0)	6 (4.9)	1 (0.9)	0.38966
名古屋のイベント検査	16 (3.1)	3 (2.2)	5 (3.7)	5 (4.1)	3 (2.8)	0.82136
その他	14 (2.7)	4 (2.9)	4 (3.0)	1 (0.8)	5 (4.7)	0.36133
合計	513 (100)	136 (100)	134 (100)	122 (100)	106 (100)	
HIV/STIについて相談したい相手						
知り合いの医療関係者	91 (13.6)	21 (11.7)	21 (12.1)	28 (17.3)	20 (13.8)	0.42474
病院・クリニック	218 (32.5)	64 (35.6)	52 (29.9)	53 (32.7)	45 (31.0)	0.69338
保健所・保健センター	245 (36.5)	55 (30.6)	68 (39.1)	59 (36.4)	52 (35.9)	0.39704
distaのスタッフ	31 (4.6)	11 (6.1)	3 (1.7)	10 (6.2)	6 (4.1)	0.15366
電話相談	64 (9.5)	18 (10.0)	18 (10.3)	15 (9.3)	11 (7.6)	0.84380
友人・知人	174 (25.9)	52 (28.9)	42 (24.1)	40 (24.7)	37 (25.5)	0.73999
その他	11 (1.6)	5 (2.8)	1 (0.6)	3 (1.9)	2 (1.4)	0.43467
合計	671 (100)	180 (100)	174 (100)	162 (100)	145 (100)	
HIV/STIについて相談したい相手(アナルセックス経験者のみ再掲)						
知り合いの医療関係者	73 (14.3)	19 (13.9)	16 (11.9)	22 (18.0)	15 (14.4)	0.57608
病院・クリニック	172 (33.7)	51 (37.2)	42 (31.3)	41 (33.6)	35 (33.7)	0.78411
保健所・保健センター	185 (36.2)	43 (31.4)	55 (41.0)	42 (34.4)	38 (36.5)	0.40907
distaのスタッフ	25 (4.9)	10 (7.3)	1 (0.7)	7 (5.7)	6 (5.8)	0.06883
電話相談	44 (8.6)	12 (8.8)	12 (9.0)	13 (10.7)	5 (4.8)	0.45544
友人・知人	129 (25.2)	39 (28.5)	31 (23.1)	31 (25.4)	26 (25.0)	0.79117
その他	9 (1.8)	4 (2.9)	1 (0.7)	2 (1.6)	2 (1.9)	0.60864
合計	511 (100)	137 (100)	134 (100)	122 (100)	104 (100)	

*総数:年齢が45歳以上10人, 不明11人を含む。 #p値:KWはKruskal-Wallis検定, その他はχ²検定による値。

表6 大阪地区のクラブ調査結果の推移

	2002年 (n=403)	2003年 (n=596)	2004年 (n=592)	2006年 (n=687)
平均年齢(標準偏差)	28.1 (6.3)	28.9 (5.4)	28.8 (6.1)	29.2 (6.4)
居住地				
大阪	60.2	61.4	61.5	54.8
近畿(大阪を除く)	25.3	19.2	25.0	22.5
その他	14.5	19.4	13.5	22.7
利用施設等				
ゲイバー	-	80.4	83.4	80.9
ゲイナイト	40.4	33.1	71.0	56.7
商業系ハッテン場	44.4	45.0	51.0	39.2
サウナ系ハッテン場	33.3	35.4	40.3	29.3
マンション系ハッテン場	15.1	22.9	22.4	17.4
出会い系サイト	40.2	46.4	43.1	49.5
携帯用出会い系サイト	26.3	31.2	33.1	23.0
PC用出会い系サイト	27.0	35.4	41.0	29.5
プログラム接触状況				
dista認知	-	26.2	44.4	33.6
Sal+入手経験と入手先	-	38.2	52.0	33.4
ゲイバー	-	20.5	34.6	23.4
街頭・イベント	-	13.4	12.4	5.5
ディスタ	-	6.5	10.2	6.1
ゲイショップ	-	5.6	-	6.6
ハッテン場	-	2.4	-	5.0
HIV/STI予防知識の正答率				
HIVの延命治療	62.0	63.4	59.1	55.6
検査ウインドウ期	71.5	79.9	80.2	77.1
コンドーム耐性	-	55.0	58.4	50.9
STI感染の影響	60.8	71.9	71.3	68.9
梅毒の易感染性	-	86.0	86.0	81.5
自身のエイズにかかる可能性				
絶対ない	9.7	9.6	8.0	10.8
ほとんどない	25.1	30.5	32.0	31.0
五分五分	27.3	28.5	27.7	24.7
十分可能性がある	20.6	19.7	19.1	19.8
わからない	17.4	11.8	13.2	13.6
特定相手とのゴム使用頻度 (n=207) (n=340) (n=292) (n=371)				
無回答	5.3	5.0	4.1	5.1
全く不使用	23.7	24.7	15.8	14.6
不使用多い	4.3	3.2	5.1	4.0
半々	19.8	16.2	18.5	9.2
使用多い	1.0	4.7	5.1	5.9
毎回使った	45.9	46.2	51.4	61.2
不特定相手とのゴム使用頻度 (n=138) (n=294) (n=256) (n=335)				
無回答	8.0	5.8	4.7	6.0
全く不使用	8.7	10.2	5.9	8.7
不使用多い	3.6	3.4	2.0	3.6
半々	15.2	11.2	16.0	6.3
使用多い	8.0	10.2	9.4	9.0
毎回使った	56.5	59.2	62.1	66.6
最後のアナル時ゴム使用				
特定相手	-	45.6	65.3	46.8
不特定相手	-	65.3	76.5	54.7
コンドーム購入経験と購入先				
ドラッグストア等	-	35.2	41.4	53.7
コンビニ等	-	19.0	22.2	27.1
ゲイショップ	-	10.0	11.5	13.7
ハッテン場	-	7.1	9.3	11.1
	-	4.4	5.5	9.3
抗体検査受検経験と受検先				
病院・クリニック	34.3	31.4	35.7	38.0
保健所・保健センター	10.8	10.1	10.0	11.7
木曜の夜間検査	13.0	15.3	15.2	15.6
土曜午後の検査	2.3	2.5	2.2	0.7
日曜午後の検査	-	2.5	4.9	2.8
日曜午後の検査	-	-	0.8	3.1
名古屋のイベント検査	1.8	1.7	3.6	3.0
その他	1.3	1.0	1.2	2.2

数値の単位は%(年齢を除く)

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
男性同性間の HIV 感染対策とその評価に関する研究

福岡地域における同性間の HIV/STI 感染予防啓発の普及促進に関する研究

分担研究者 山本政弘（独立行政法人国立病院機構九州医療センター）
研究協力者 森田朋樹，新納利弘，野中隆宏，濱田史朗，牧園祐也，橋口卓，阿部甚兵，
田淵靖浩，北村紀代子（Love Act Fukuoka）、井上緑（独立行政法人国立病院機構九州医療センター）

研究要旨

地方都市におけるゲイコミュニティに対する啓発普及のモデルとして、福岡地域のゲイコミュニティに対する啓発普及の試行を行った。特に今年度は新しい試みとして、地方のコミュニティにおける活動のネットワーク化を目指した活動を行なった。さらに今年度もゲイコミュニティにおけるアンケート調査も行なった。

平成18年度は、大きく分けて次の3つの活動を行った。

- 1) 啓発活動の継続
知識および行動変容への展開
行政との連携
- 2) 新しい試み
活動のネットワーク化，ブランチ化
- 3) 性意識，知識，性行動，検査行動など調査解析

A. 研究目的

HIV 感染の拡大は都市部だけでなく、地方でも増加しており、九州ブロックにおいても近年増加傾向が顕著になってきている（図1）。福岡市にある九州医療センター受診者数でも同様であり、特に今年度はついに総計 200 を越える受診者を見た。その内訳を見るとやはり男性同性間での性交渉による感染が最も多く、現在では半数以上を占めるようになってきている（図2）。さらにこれらの新規患者（当院初診より半年以内に感染の診断を受けた患者）の解析では、やはり大半が MSM であり、さらに今年度は急性感染（感染から半年以内）で診断がついた患者が多くみられ、コミュニティ内において現在進行形で感染が拡大していることが示唆される（図3）。このことから福岡のような地方都市においてもさらなる男性同性間の感染予防啓発の重要性が示唆される。

また福岡よりさらに小さなコミュニティしか

ない地方の都市では HIV 感染の診断治療だけでなく、男性同性間の感染に主体を置いた予防啓発もほとんど行なわれていないのが現状である。このような地方の小コミュニティでは大都会ほどの感染者の報告はないが、小さなコミュニティであるだけに一度 HIV 感染が入り込むと一気に感染が拡大する危険性も秘めている。また HIV 感染の診断体制自体が不十分であることも多く、地方の小コミュニティでの感染拡大は十分に把握されていない可能性もある。

これらのことより福岡においては特に地方への予防啓発活動の拡大をテーマに研究を行った。

B. 研究方法

平成18年度は、大きく分けて次の3つの研究活動を行った。

- 1) 啓発活動の継続
知識および行動変容への展開

行政との連携

2) 新しい試み

活動のネットワーク化, ブランチ化

3) 性意識, 知識, 性行動, 検査行動などの調査解析

C. 結果

1) 啓発活動の継続

(A) 知識および行動変容への展開

同じコミュニティの中でも年齢の違いや帰属意識の違い、予防への関心度の違いなどで、いくつものグループに分かれており、同一プログラムによる予防活動では逆効果になることもある。福岡における啓発活動では対象となるターゲット、それぞれに対して個別のプログラムを計画した。

(1) ゲイバー等商業施設利用者対象

(a) コミュニティペーパー「season」

(対象)

博多、小倉のゲイバー、発展場利用者、ゲイナイトなどのイベントに参加するMSM

(目的)

上記の対象に対し、seasonという紙媒体を通し、STI予防のための情報を提供すること

(方法)

コミュニティMAP、博多のゲイコミュニティ関連の情報に交え、STI予防に関する情報を掲載し、季刊にて発行。ゲイバー、ゲイショップ、発展場各店舗、イベント等において配布。

(平成18年度配布実績)

第一回	4月9日	博多1710部
	4月29日	小倉350部
第二回	6月18日	博多1710部
	6月23日	小倉350部 (送付)
第三回	11月5日	博多1350部
	12月9日	小倉320部

(内容)

10月発行の秋号#08より、今年度から condom 配布を開始した北九州、小倉のコミュニティMAP、保健福祉センターの情報を新たに追加するに伴い、リニューアルした。

seasonのコミュニティMAPとしての利用率の高さを考慮し、形状を今までの八ツ折から、8月の「夏宴」で、「MAPが見やすい」と好評だった冊子状に変更。

啓発の要素を強めるため、ゲイ、バイセクシャル男性に対しセックスを含む自身のゲイライフに関する問いかけをし、答えてもらう「Do you?」という新コーナーを作成。コミュニティを共にする当事者からのことばを読んでもらうことで、後に続くSTIに関する情報

をより身近なものとして感じてもらうことを目的とした。将来的にはこのコーナー自体を発展させ、博多のゲイ一人一人の一面を映した一つの啓発資材として発展させる予定である。

(結果, 考察)

冊子状にして、MAPとしての機能を向上させたことで、旅行者に対する便利なツールとしての存在感を増やすことが期待できる。また、コミュニティMAPを必要としない、すでにコミュニティに通じているMSMに対する効果的なアウトリーチのために、「Do you?」といったコーナーの新設のように、記事内容により一層の充実を図ることが課題である。

(b) コンドームアクセスの展開

オリジナルコンドーム作成および配布

(目的, 方法)

福岡のゲイコミュニティへ向けたメッセージを同封したオリジナルコンドームを作成することで、さらにコミュニティとの密接な係わり合いができるのではという目的から、配布用のコンドームのパッケージを独自にデザインした。18年度では特にゲイ向け雑誌に連載されていた、人気マンガ「ミルク」の作者、野原くろ氏にパッケージデザインを依頼。マンガに登場するキャラクターを起用、またパッケージ裏面に野原くろ氏のメッセージを同封することで、主にコンドームの使用率が少ない若年層へ対するアプローチを試みた。

(実際の配布活動)

よりコミュニティに近い場所でのコンドームアクセスを容易にするために、クラブイベント、スポーツイベント、各商業施設店舗へ配布を行った。

(平成18年度配布実績)

第1回配布	4月9日	2,040個	店舗配布
第2回配布	4月29日	1,050個	小倉店舗 配布
第3回配布	5月21日	2,100個	店舗配布
第4回配布	6月18日	2,020個	店舗配布
第5回配布	7月14日	200個	クラブ イベントoh!
第6回配布	7月15日	50個	studio ドローイングパーティ
第7回配布	8月13日	200個	クラブ イベント九州男児ナイト
第8回配布	8月26日	850個	小倉店舗 配布
第9回配布	9月10日	2,010個	店舗配布
第10回配布	11月5日	200個	バレー ボール大会
第11回配布	11月5日	2,070個	店舗配布

第12回配布11月11日	200個	クラブ イベント 男祭
第13回配布12月9日	850個	小倉店舗 配布
第14回配布12月29日	2,200個	店舗配布 予定

合計 16,040個

※参考 平成16年度総配布個数約13,000個
下期、1月、2月、3月配布予定分を
合わせると18年度総配布個数は
23,690個配布になる予定。

(考察)

今年度は主に若年層向けの Condom デザインが多かったことから、配布活動を行ったシニア層の店舗の中には「家に持って帰りづらい」などの意見が挙がったこともあったが、総じて配布店舗では Condom 配布活動が一般化しているように見受けられる。店舗によっては店の方がお客さんに手渡ししてくれるなどのケースもあった。

また今年度は前年度配布個数に比して約4,000個の増加しているが、これは Condom の配布の認知度が上がり、ピックアップ率が高まったことにより、補充する Condom の量が増えたこと、また小倉への配布活動を行い始めたことによる配布個数の増加が考えられる。

今後も福岡地域の Condom アウトリーチでは、次年度も継続して店舗・商業施設等のアウトリーチ活動を継続して行きたい。また season 等の資材や、計画予定中のコミュニティセンターを活用し、よりコミュニティの身近にいられるように活動をしていくことで、様々なイベントなどにもすぐに対応し配布活動を行っていききたい。

(2) 性行動の活発な若年者対象

(a) oh!(クラブイベント)

(目的)

コミュニティ内においても性行動が活発な若年層をターゲットとして、クラブイベントを行ない、啓発活動を行なう。またアンケート調査、新しい若いスタッフの獲得なども目的とした。

(方法)

より多くを対象とするため、地元若年層に人気のパフォーマーを迎え、また携帯電話を利用したマッチングシステムを導入した。

(平成18年度実績)

平成18年7月14日(金)～15日(土)

参加者数 135名

(3) インターネット利用層およびゲイバー等商業施設利用者対象

(a) ホームページ作成

(目的)

ゲイバー等商業施設へのアクセスが少ないインターネット利用層を対象として、予防啓発に関する情報を発信

(内容)

- ・活動内容の広報
- ・HIV/AIDSを含む性感染症に対する予防啓発の情報提供
- ・コミュニティペーパーのバックナンバー掲載
- ・他団体や検査情報とのリンク
- ・ゲイコミュニティの活性化

将来的にはイベント等の情報をリアルタイムで発信

(考察)

インターネット利用層を対象としてコミュニティペーパーのバックナンバーを掲載することによってHIV/AIDSを含む性感染症に対する予防啓発の情報提供を行っている。また、Condom やコミュニティペーパーを見てLAFの活動に何らかの関心を抱いた人を対象に目的や活動内容を示すための情報提供の一つとしてもホームページを利用している。

ホームページの掲載内容についてはLAFの活動自体、福岡のゲイコミュニティの活性化を目標としている部分もあるので、イベント等の情報をリアルタイムで発信できるのがベストだと考えられるが、ホームページの編集作業をLAFのメンバー自身が行っておらず、リアルタイムでの変更が行えないため正確さと新鮮さを求められるイベントなどの情報を出来るだけ排除LAFの活動内容、今後の活動予定に情報を限って載せることとした。

今後は自分たちで編集作業を行えるようにスキルアップを図るとともに、リアルタイムで福岡のコミュニティに対する情報発信をしていきたい。

(b) 参加型啓発イベント

「博多夏宴」ドローイングパーティー

(対象)

「博多夏宴」に参加したMSM(若年層～中年層)

(目的)

ゲイコミュニティへの積極的な参加がない、あるいは予防啓発に興味のない層に対しては通常の啓発イベントではなかなか情報が届かない。今回このような層に対しても、実際に啓発資材作成の課程に参加することにより、

予防啓発に対してより関心を持ってもらうことを目的とした。

(方法)

ドローイングパーティーを実施するにあたってフライヤーを作成し、インターネットでの告知を行った。また当日は「浴衣祭り」の開催に併せて携帯電話を使ったマッチングシステムを取り入れ、受付会場を併設し集客を図った。

主催者側が用意したキャンバス（下絵入り）に参加者が彩色をすることで、一枚の絵を完成させる。完成した絵はデータ化し、ポストカード・WEB上での公開等、LAFの啓発資材として利用する。

(結果)

「博多夏宴」期間中に開催された「浴衣祭り」実施エリアでイベントを行ったことにより、70人～80人のMSMが参加、2枚の絵が完成した。

(考察)

多くの人々が参加して出来た販促資材をLAFの存在や活動内容の認知に結びつけるため、今後どのように啓発資材を製作し、配布していくかが課題となる。

(B) 行政との連携強化

長期に渡り実現可能な活動を目指すためコミュニティのみならず、行政、医療、研究者、福祉、NGO等との協働事業を模索した。期初である4月28日にセクシュアルヘルスネットワーク会議を開催。医療センター、福岡県、福岡市の担当者、長谷川、AWF、LAF、が参加。LAFより平成17年度の活動報告を行うと共に、県、市が毎年共催しているエイズデーイベント等での協働を図ることへの意思確認を行った。

結果として、県と市の共催のエイズデーイベントでは、イベントの目玉プログラムの一つであるラジオ放送にLAFも出演するという形で参加。MSMの現状を伝えた上で、LAFの活動の重要性や課題をアピールすることができた。

また、昨年作成した「My first safer sex」を保健所が自主的に配布行う等、連携に広がりが出てきたことも追記したい。

2) 新しい試み

活動のネットワーク化、ブランチャ化

(A) 各地域のコミュニティにおける活動のネットワーク化-博多から北九州市へのアウトリーチ-

(目的)

福岡よりさらに小さなコミュニティしかない地方の都市ではHIV感染の診断治療だけでなく、男性同性間の感染に主体を置いた予防啓発もほとんど行なわれていないのが現状である。このような地方の小コミュニティでは大都会ほどの感染者の報告はないが、小さなコミュニティであるだけに一度HIV感染が入り込むと一気に感染が拡大する危険性も秘めている。またHIV感染の診断体制自体が不十分であることも多く、地方の小コミュニティでの感染拡大は十分に把握されていない可能性もあり、地方の小コミュニティに対する予防啓発は今後重要性を帯びてくるものと思われる。

しかしながら、それぞれの小コミュニティにおいて各コミュニティ独自の予防啓発活動を行なうことは特に地方の小さなコミュニティにおいては人的、物的にも困難を極める。各地域の中心となるコミュニティより周辺コミュニティへの活動の拡大、支援が必要である。

(方法)

福岡市から程近い北九州市にも対象となるMSMの集うバーや発展場などが併せて16軒程あり、博多とは違った人脈でコミュニティを形成していることから、北九州小倉地域へのコンドームアクセスの展開を試みた。

- a) 対象地域 福岡県 北九州市
小倉地区のバー13軒、ハッテン場3軒
- b) 対象地域の都市規模
北九州人口-約99万人
- c) 対象層：バー・ハッテン場に出ている
MSM 若年層～シニア層

小倉配布経過

第1回配布	4月29日	1,050個	小倉 店舗配布
第2回配布	8月26日	850個	小倉 店舗配布
第3回配布	12月9日	850個	小倉 店舗配布予定
第4回配布	3月中旬	850個	小倉配布予定

(考察)

問題点としては各地域の中心的コミュニティの予防啓発メンバーだけでは周辺の小コミュニティ全てに対してアウトリーチ等の活動を長期継続していくことは困難であり、小コミュニティ独自の啓発活動を育成、支援する必要性が認められた。

この問題点を解決するために三ヵ年計画を立てそれを目標に、アウトリーチを行っていくことが考案された。

平成18年度：

現状の店舗・コミュニティの規模の確認
コンドームのアウトリーチ
小倉コミュニティとLAFとの連携構築

平成19年度

アウトリーチ継続

小倉コミュニティのキーパーソンの発掘

小倉での共同イベントの開催

平成20年度

小倉コミュニティ単独のイベントの開催

小倉コミュニティ単独のアウトリーチ

LAFはそのサポート

今後この計画に従い、小コミュニティ独自の啓発活動を育成、支援していく予定である。

(B) コミュニティ内における活動のネットワーク化

(1) 商業施設との協働

コミュニティ活性化プログラム

『Lesbian & Gay HAKATA Summer Festa 博多夏宴2006』

(目的)

コミュニティでの当事者主体型の予防啓発活動を継続していく上で、コミュニティ内での協力体制は必要不可欠である。しかしながら、コミュニティ内においてキーパーソンとなるゲイバー等商業施設はもともとが営利組織でもあり、ボランティア主体の予防啓発活動との協力関係構築は困難な面も認められた。そのため、商業施設との協力関係を推進するため、コミュニティ全体の活性化を主体とし、そのなかで啓発活動を行うコミュニティ活性化プログラムを考案した。

(方法)

夏の性活動が活発になる時期に、効果的な予防啓発活動を行うために、LAFで初のmen onlyクラブイベント「oh!」や「ドローイングパーティー」等のイベントを企画した。

ゲイコミュニティ内にてイベントが集中して開催されることと、2003年に実施した「wave」での実績があったためコミュニティ側からの逆提案があり、夏期期間中に行なわれるイベントの紹介と啓発記事、MAPを一つの冊子にまとめ、6000部を印刷した後、広く全国に配布しコミュニティの活性化を図った。

地元ゲイナイトと提携し携帯を使ったマッチングシステムをクラブイベント「oh!」や「ドローイングパーティー」「浴衣祭り」で利用できるようにし、コミュニティやイベントオーガナイザーとの連携をはかった。

各イベントでコンドーム配布やLAFの活動の紹介などを行ない、LAFの認知を図った。

(考察)

コミュニティを活性化する目的の商業施設との協働イベントは、予防啓発活動においてコミュニティ内の協力体制、ネットワーク確立のため有効であることが示唆された。

(2) コミュニティセンター

上述のごとく、コミュニティ内の協力体制、ネットワーク化においてコミュニティを活性化目的の商業施設との協働イベントは有効であったが、その効果はイベントの時だけの一時的効果でもある。今後長期に渡ってコミュニティ内のネットワーク化を図り、有効な啓発活動を継続させるためにはAkta（東京）、Dista（大阪）などの先行事例にもあるようにコミュニティ内に予防啓発のためのコミュニティセンターが設置され、当事者主体の継続的な予防啓発活動が行われることが望ましいと考えられる。

今年度報告には盛り込めなかったが、今年度福岡にもコミュニティセンター設置が実現する予定であり、次年度報告ではコミュニティセンターの活動実績、その効果等を報告する予定である。

(3) 追記：スタッフの定着化とレベルアップの取り組みについて-活動の長期継続に向けて-

この研究班に代表される予防啓発活動の多くは個人のボランティアに支えられて行なわれているため、このような活動においては常にボランティアスタッフの定着率やスキルの問題がでてくる。

活動開始時より、スタッフの募集はボランティア説明会を開催したり、イベントごとに呼びかけたり、機関紙に掲載するなど常時行ってきた。これまでに、20名近くの参加があったが、参加が継続されないことが多く見られた。それぞれの事情にもよることが多いが、参加しても何をして良いかかわからない、自分がいなくても良いのではという声も聞かれていた。

その対応策として今年初めに新たに加わったスタッフとともに、年間計画を作成するに当たって細かい担当を決め活動を実施した。そして、毎週金曜日に行われるミーティングにおいて担当がそれぞれの活動の進捗状況を報告することとした。会の活動についての情報を共有することができ、それぞれが、会への責任感を持つと同時にモチベーションを上げることができたのではないと思われる。団体活動を続けるためには、スタッフの充実が必須のものであるにも関わらず、「ボランティア」であるため、継続・定着については不安定であることが多いが、具体的な「しごと」があるということによって安定に繋がったのではないかとおもわれる。

また、活動内容の異なる別のエイズ関連団体で

の活動や勉強会・イベントへの参加も積極的に行われるようになり、エイズについて多くの情報やスキルを得ることができ、それをLAFの活動に生かしていくことができたのではないかと思われる。

しかしながらこれらは根本的な解決とはならず、有効な啓発活動を継続するためには、これらの「活動」を事業化する必要があると考えられる。

3) 性意識、知識、性行動、検査行動など調査解析

本年度もコミュニティにおける啓発活動の効果評価の一環として、性意識、知識、性行動、検査行動など調査解析を行なった。

(対象)

イベント等に参加したコミュニティ構成者 (91名)

(方法)

無記名のアンケート方式

(結果)

図4、5に示すごとく、前年度までと比較した場合、年齢層、職業等に大きな変化はないものの、県外からの参加者が増加しており、福岡県だけでなく、県外にも認知度が広がっているものと思われる。また利用施設やアナルセックスに関して差はないものの、コンドーム常用率の増加傾向は、今年度は認められなかった(図6~12)。これは県外からの参加者の増加に伴い、これまでの啓発活動や情報に接していなかった層の参加が増加したことも一因にある可能性がある。さらに受検行動に関しても増加傾向にあるが、福岡地域の場合、特に保健所における受検行動の拡大が認められる(図19)。また図20のごとく、エイズへの関心も増えており、福岡地域における啓発活動の有効性が伺い知れる。

(考察)

イベント等に参加したコミュニティ構成者だけのデータであり、またサンプル数も少ないため、かなりのバイアスがかかっているものと思われるが、行動変容に関してはまだ不十分であり、今後さらなる啓発活動が必要である。

D. 考察

戦略研究を含めたエイズ対策はどうしても首都圏や関西圏など大都市を中心として行なわれることが多い。しかしながら人口だけをみても国民の大半は東京、大阪、名古屋などの都市圏以外に居住しているのである。そして地方における小コミュニティにおいては大都市とは比べ物にならないほど、情報、人材、マンパワー、予算など

全てが貧弱である。さらに地方における閉鎖性、保守性などにより地方におけるHIV感染は秘匿される傾向にある。また地元における情報漏洩、差別偏見などを恐れ、検査や医療においては都市部にて受ける傾向が強く、大都市で感染者報告が多いとする動向委員会の報告は実情を表してないとする意見もある。

その一方で小さなコミュニティほど一旦感染症が侵入してしまうとコミュニティ内に一気に感染症が蔓延する例には枚挙に暇がない。

これらのことより、大都市のみならず、というよりは大都市以上に地方の小コミュニティに対する予防啓発は重要であると言える。しかしながら地方の小コミュニティにおいては情報、人材その他多くの問題があり、独自に啓発活動を構築するには大きな困難を伴う。

そこで福岡グループは福岡だけに特化するのではなく、同じように困難な状況にある地方都市における当事者主体の啓発活動のモデルとなるべく、都市部における先行事例を参考にしつつ、活動を行なってきた。

今年度はさらにそれを押し進め、周辺地方の小コミュニティにおいても当事者主体の啓発活動が立ち上がるよう、活動のネットワーク化、ブランチャ化を目指して、北九州市小倉のコミュニティにてアウトリーチを開始した。これらの活動の効果評価についてはこれからであるが、地方の小コミュニティにおける予防啓発活動構築におけるひとつのモデルになればと考えている。

またコミュニティ内において啓発活動を継続して行く上において、コミュニティ内における協力体制の確立も重要である。しかしながらコミュニティ内におけるキーパーソンであるゲイバーなどの商業施設においては、もともとが営利組織でもあり、ボランティア主体の啓発活動とはなかなか共同歩調をとることが困難であった。そこで共通の目標となるコミュニティ活性化のためのプログラムを作成し、協働でイベントを開催し、同時に啓発活動を行った。これらによりコミュニティ内における協力関係の構築ができたと考えられるが、今後継続的にコミュニティ内におけるネットワーク構築のためには、さらなる方策が必要である。そのためのひとつの手段として、東京、大阪、名古屋などにおける先行事例もあるコミュ

ニティセンターが有望である。本報告書においては報告できなかったが、今年度中に福岡においてもコミュニティセンターが設立される見込みであり、その効果評価など今後報告していく予定である。

E. 研究発表

1. 論文発表

1) Rumi Minami, Masahiro Yamamoto : Elevated serum levels of RCAS1 are associated with a poor recovery of the CD4+ T cell count after ART in HIV-1-infected patients. J AIDS

Research 8(1) 25-27, 2006

2. 学会発表

1) Rumi Minami, Masahiro Yamamoto. : HIV-Tat protein increased the expression of apoptosis-associated protein RCAS1 in CD4 + cells and monocytes. XVI International AIDS Conference in Toronto, Canada, 13-18 August 2006.

2) 高濱 宗一郎、南 留美、山本 政弘
渡邊 秀之、宮村 知也、末松 栄一: 当院におけるHIV-1急性感染患者11例の検討、第276回内科学会九州地方会、平成19年1月13日

図1 九州における HIV 感染者/AIDS 患者累計報告数

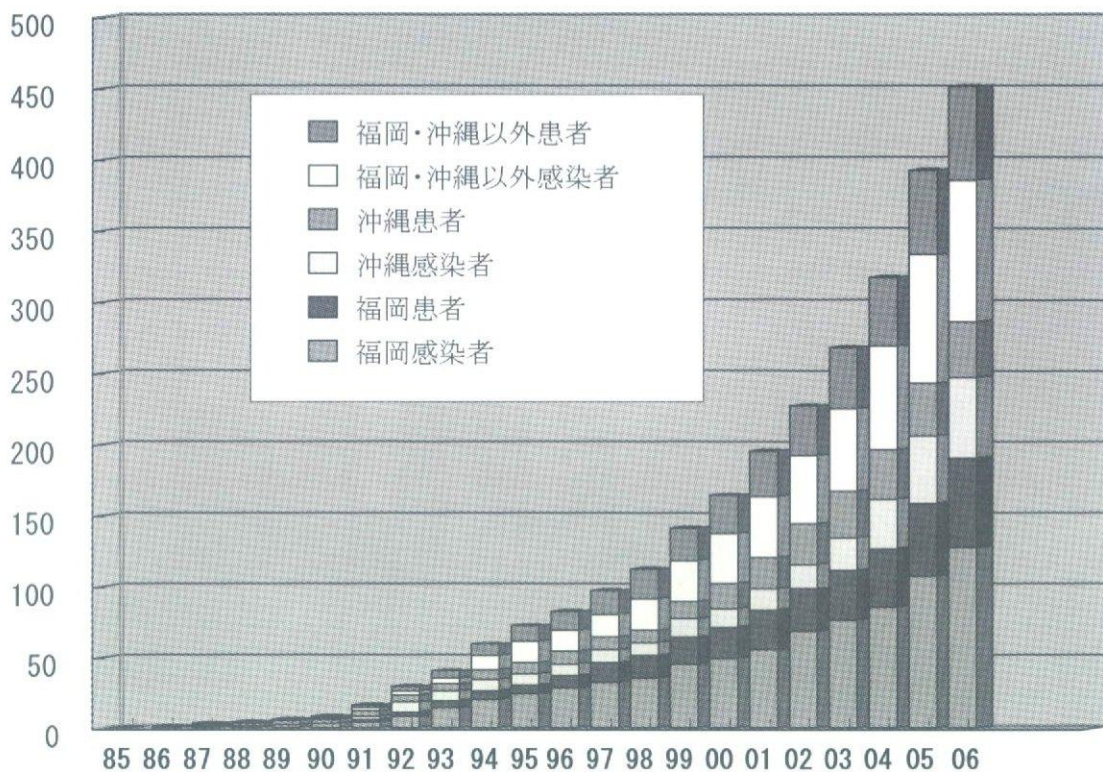


図2 九州医療センターにおける受診患者数

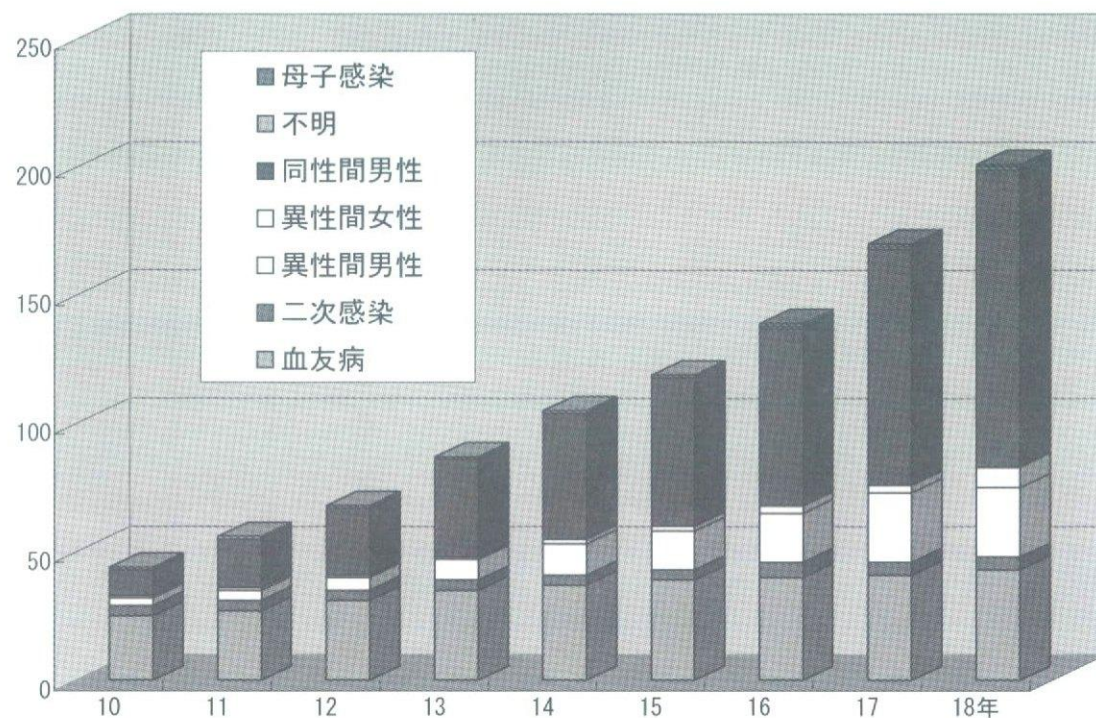


図3 新規に感染が診断された患者の解析

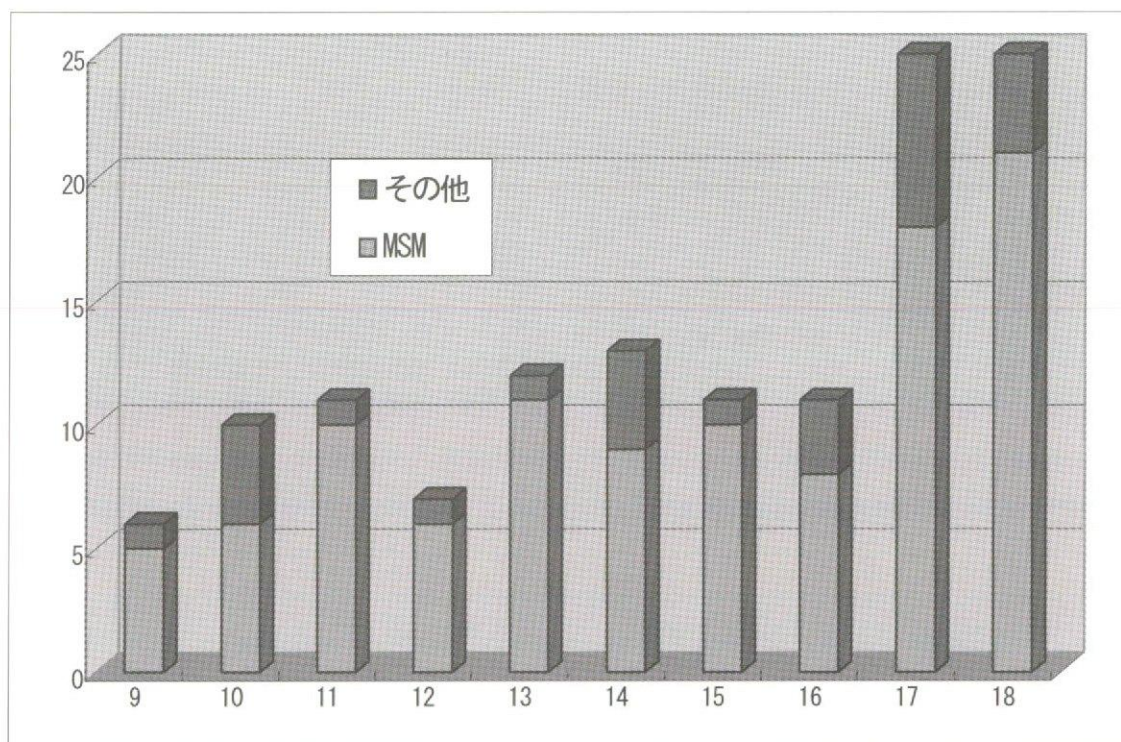
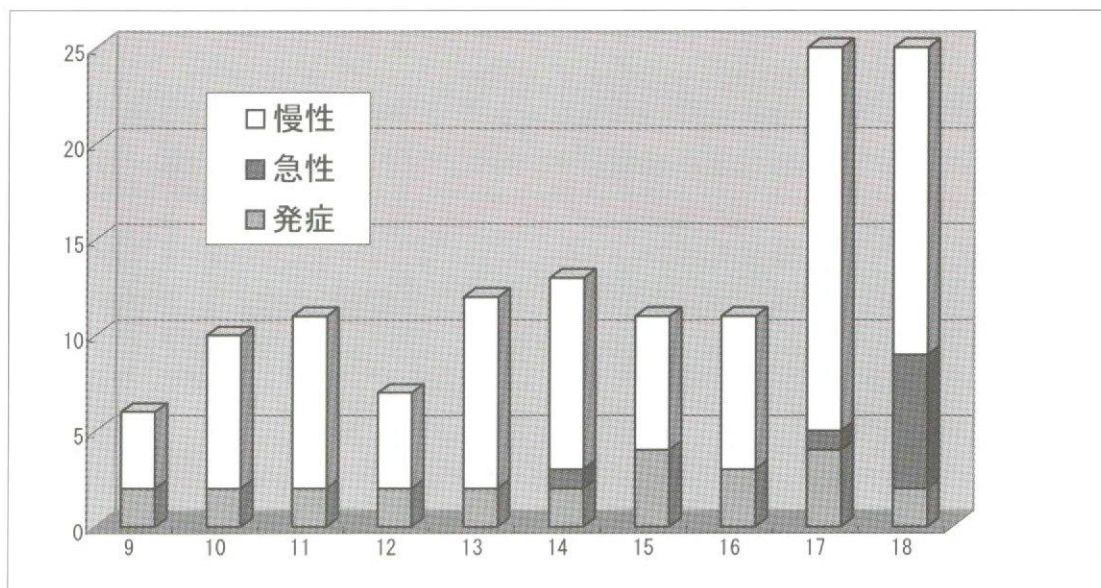
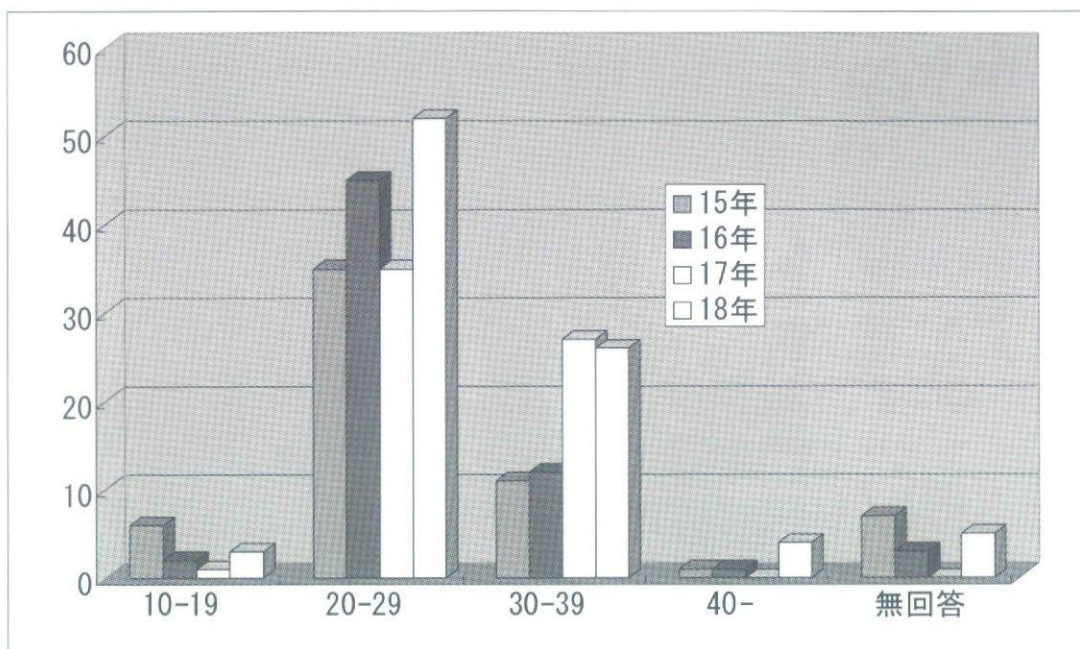


図4 アンケート結果（1）

年齢構成



居住地

